

まちかど

であいこうか

DEAI 5 KOKA
地域で活躍されている元気な方を紹介するコーナーです。

北相模 瞳さん(甲賀町高野)



女性消防団・和太鼓で 充実の毎日

「人と話すのが好きなんです。」という北相模瞳さん。普段



真剣なまなざしで和太鼓を演奏する北相模瞳さん(昨年「和太鼓サウンド夢の森」)

は、その性格を活かし接客のお仕事をされている北相模さんは、ほかにもいくつかの横顔を持つ女性です。一つ目は、今年4月に発足した甲賀市消防団女性消防隊の一員であること。一般的に男性が入るものと思われる消防団に足を踏み入れるにはかなりの勇気がいりそうですが、「今年で20歳なので、なにか新しいことを始めてみようと思って。」と入団には、ためらいはなかったそうです。女性消防団員として現在、応急手当普及員になるための講習や訓練を受けておられます。「私たちが心肺蘇生法やAED(自

動体外式除細動器)の使い方や普及していくことで、多くの市民の皆さんが習得され、いざというときに役立ててもらえたらうれしい。」と北相模さん。もうひとつ、夢中になっっていること、それは和太鼓。中学3年生のとき、吹奏楽部で打楽器を担当していたことがきっかけで、当時結成された「甲賀忍玉太鼓団」の初代メンバーに、そして、高校2年生頃からは、現在所属する「小佐治すいりょう太鼓」の一員となった北相模さん。「太鼓のメンバーは、私にとっ

て第二の家族みたい。」とそこは居心地のよい場所のようです。今ほもつばら今月25日(土)に開催される「和太鼓サウンド夢の森2007」に向けて、時間があまる限り練習に励んでおられます。北相模さんにとって6回目の出場となる今年は、このイベントが始まって記念すべき10回目。「今年は今までの集大成。できるだけたくさんの人に聞いてもらいたいです。」と意気込んでおられます。多方面で活躍され、お忙しいようですが、「毎日いろんなことを勉強できるし、楽しいことだから続けられますね。」と話す北相模さんは、元気にあふれていました。

地域に開かれた病院へ

第1回公立甲賀病院看護フェスタ



AEDの使い方を教わる参加者の皆さん

地域社会で信頼され、愛される病院となるためには、より地域に開かれた医療機関となる必要があります。公立甲賀病院では7月7日(土)、同院の看護を一人でも多くの皆さんに知ってもらおうと第1回看護フェスタが開催されました。当日は、看護師の活動紹介などのパネル展示、普段の手洗いでどこまできれいに洗っているかを確認する手洗い体験、さらにはAED(自動体外式除細動器)による初期の救命活動が体験できるコーナー、県内に6名しかおられないホスピスケア認定看護師*の講演がありました。参加された皆さんは普段できない貴重な経験をし、病院への関心を高められたよう

です。*現在の高度化、複雑化した医療に対して、水準の高い看護を提供するために、日本看護協会が定めている資格。主にがんや難病の方やご家族に対して支援を行う看護師。



お得意さんとのコミュニケーションも大切な仕事



ブルーベリーを摘み取る児童たち

「甘い」 「初めての収穫を満喫」 甲南第三小ブルベリー収穫 甲南第三小学校の全校生徒52人が7月19日(木)、上野川営農組合が経営するブルーベリー畑を訪れ、実の収穫をしました。昨年植えられ、今年が初めてとなる収穫を地元の子どもたちにも体験してもらおうと、営農組合から同校への呼びかけがあり実現したものです。学校から歩いて訪れ、530本のブルーベリー「宮ベリ」が植えられた畑に入った児童たちは、組合の方に教えられたとおり、濃い青紫色の実を選び、指先でやさしく摘み取っていました。口に含んだ児童たちは「甘くておいしい」とみんな笑顔に。ブルーベリーは今後、8月末まで近所の方によって収穫され、JA甲賀郡などに出荷される予定です。営農組合では、今年新たに250本を植栽されており、来年には、さらに多くの甘い実がなることでしょう。

雨に負けずに めざすはゲート通過

甲賀地域連絡協議会 第21回ゲートボール選手権



雨の中ゲートボールを楽しむ皆さん

日頃の練習成果を発揮し、選手相互の親睦を深めようと7月11日(水)、滋賀県ゲートボール連盟甲賀地域連絡協議会第21回ゲートボール選手権が水口スポーツの森多目的グラウンドを会場に開催されました。

当日は、あいにくの雨となりましたが、参加された皆さんには関係のない様子。市内と湖南市から参加された85チームの選手皆さんは、ゲート通過とゴールをめざしてプレーしていました。

開会式には中嶋市長も駆けつけ「地域は皆さんの元気で支えられています。これからもますますお元気で、そして今日も一日頑張ってください。」とあいさつをしました。

甲南高校の生徒が配置売薬を体験する「配置体験実習」が6月23日(土)、行われました。配置売薬は、かつて甲賀の業の根幹を支えてきましたが、近年、後継者不足が問題となっています。この実習は、仕事の内容を知ってもらおうと甲賀町薬業会が毎年1回実施しているもので、今年は2、3年生10人が参加。県業業会館で説明を受けたあと、4班に分かれ、本業の販売員とともに水口や三重県伊賀市などの得意先へ向かいました。生徒たちは、訪問先の家庭で、販売員の指導を受けながら、明細書の記入、薬の補充、売り上げの計算などを体験。実習を終えた多くの生徒から「会話をするのが難しかった」という声がかれました。お得意さんとの信頼関係を築くためのコミュニケーションや、商売の難しさを感じた1日となったようです。

甲南高校生 配置売薬体験

商売の 難しさを体得